

母の 656 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

こどものメイケン⑦ 2
わたしの原風景⑥／あさのあつこ 3
2019年の子どもたちへ／那須正幹、井桁容子、小森陽一 4
新刊紹介／今関信子、小澤俊夫 7

イラスト／降矢なな



感謝と贈与

汐見稔幸

人生で「成功」すること、地位や名誉を得、高い報酬を得ることは、その人の努力によるものだろうか。人間は関係の中で生きている、ということは、忘れられがちだが、人間が最も心しておかねばならないことではないかと思う。

孔子も釈迦もソクラテスもイエスも、自分では一文字も書き残していない。にもかかわらず、この人たちの生存中の言動が後世まで伝えられ広まったのは、ひとえに、彼らの周囲にいた人たちが、この人はすごい！と評価し、意味づけをし、広めようとしたからだ。その姿勢が適切だったから広まり歴史に残ったにすぎない。芸術、文芸、生活文化、すべてあることをしようとはじめた人の成果というよりは、それを高く評価し広めた人たちの努力で残っているのだ。

だとすると、社会で高く評価されている人は、そう評価してくれ私を勇気づけてくれた周囲の人たちにまず感謝すべきではないのか。しっかり育ててくれた親、自分のいうことを理解して協力してくれた周囲の人、細かなミスは大目に見てくれて自分のいいところを評価してくれた世間、等々がいたから、今の私がある、ということは忘れてはいけない。

「成功」した人は、私は幸いにも恵まれて地位や高収入を得た、そのことを私は、私をそこまで導いてくれた人たちに深く感謝しなければならない——そうした人生哲学を自覚しなければならないのではないのか。感謝すること、これこそが、どんどん階層分化が激しくなる社会で、特に「上」にいる人に切実にまず求められている思想ではないかと思う。

感謝が真摯^{しんし}に行われたら、私が運良く得た幸運、高評価、高収入等を感謝する相手に還元する、ということが次の生き方になるだろう。得たものを必要な人、必要なところに見返りを求めず差し出す。そう、贈与するのだ。感謝と贈与、これがこれからの社会のもっとも大事な人生哲学にならねばならない、と思う。

たとえば地球では毎日4万人もが餓死しているが、そのひとたちのために世界中の人が収入の0.01%を毎月差し出す。地球税として贈与するのだ。

トランプ政権の、新たな選民思想につながりかねない危うい政治。青山というハイソな人たちの住み家となりはじめた地域での一部の人たちのブランド価値を守ろうとする狭隘^{きょうあい}な姿勢。こういうことが始まったのは、私たちの中に、人間として大事な基本哲学が欠けてきているからではないのかと、強く懸念する。

感謝と贈与。ここから新たな社会づくりを。

(しおみ としゆき／東京大学名誉教授)



こどものメイクン

■五歳の誕生日の朝、
鏡をまじまじと見つめて

「あれえ？ あんまりおおきくなってないみたいだなあ」

はっとする子どもの一言を、シチュエーションを添えて、お寄せください。氏名・住所・電話番号・お子さんのお名前と年齢・お子さんのお名前の掲載の可否を明記のうえ、童心の会(p8)まで。掲載させていただいた方には絵本を1冊プレゼントいたします。

わたしの原風景

6

あさのあつこ

作家



イラスト／石川えりこ

わたしは山間の温泉町に生まれ育った。その町の近くに、今も住んでいるのだけれど、自分の書く物の原点にはいつも、この町がある。今の、ではなく、今から十年前、わたしが子どもとして中学生として高校生として暮らしていた町だ。

猥雑なところだった。昔ながらの温泉街があり、そこには何軒ものヌード劇場やら飲み屋やらが建ち並び、週末ともなると酔客の放歌や乱れた下駄の音が響いた。祖母が小さな食堂を営んでいたものだから、忙しいとよく駆り出された。手伝った際に祖母はながしかの小遣いをくれたから、ちょっとしたバイトでもあったのだが。

バイト代はもちろん魅力的ではあったが、店にやってくる人々はそれ以上におもしろく、惹きつけられたりもしたものだ。

近くのヌード劇場専属のダンサーは、もうおばさんといえる年齢だった。皺が目立ち、身体も緩んでいた。たいていは化粧気なしのすっぴんだったが、一度、怖いほどの厚化粧でやってきたことがある。太いアイラインに付け睫毛、真っ赤な唇と頬。来訪神みたいだった。祖母に「○○さん、でえら化粧じゃな」と言ったら、真顔で「あの人はプロじゃから、舞台で何がどう映えるかようわかっとなるんよ。余計なこと言いなさんな」と叱られた。

また、お客さんの中に年に二、三度やってきて、必ずオムライスを注文する年配の男の人がいた。その人の半袖からのぞいた腕に、青い蔓草模様が覗いていて仰天した。わたしはまだ小学生で、穏やかな顔立ちの老人と刺青を結びつけるどんな経験もなかったのだ。

祖母は「あのお爺さん、ヤクザなん」と聞かす孫娘を軽く睨み、「どういいう人でもお客さまじゃる。あれこれうるさく言わんの」と戒めた。老人はおそらく堅気に戻っていたのだろう。そして、祖母はそのことを知っていた。確かめる術はないが信じている。○○さんも老人もおもしろい。人の深さを教えてくれた。祖母の生き方と食堂は今でも、物書きとしてのわたしの糧になっている。

さよなら平成時代

那須正幹(児童文学作家)

じつはこれと同じタイトルのエッセー
や読書雑誌に寄稿したことがある。八九
年四月号で、昭和が終わった直後だから
なんとも気の早いタイトルだ。その中で
こんなことを書いていた。

「もうひとついえば、平成という年号で
さえ、きみたちがおとなになるころには
過去のものになってしまっただろう。

そのころ昭和という時代がどんなイ
メージでとらえられるのだろう。人類の
平和と繁栄の幕開けの時代だったとされ
るのか。逆に、戦争と破滅の前の一瞬の
静けさの時代ととらえられるのか。そも
そも『さよなら平成時代』のテレビ番組
をのんびり眺められる人類が生存してい
るかだろうか」

この稿を書いたときには、まさか三十
年後に同じタイトルの原稿を書くことこ
なろうとは思いませんでした。

それにしても、平成が始まったばかり
のときに、なんとも悲観的な予想をした
ものである。しかしながら、人類滅亡と
まではいかないまでも、ここ数年の情勢
は、決してのんびり「さよなら平成時代」

2019年の 子どもたちへ



nana 2019

イラスト/降矢なな

を眺められる状況とは言い難い。そもそ
も平成そのものが混乱と対立の時代だっ
たと言ってよいだろう。

湾岸戦争、イラク戦争、シリア内戦な
ど中東の紛争はいまだに収束の見込みは

立っていないし、北朝鮮問題も未解決の
ままだ。

バブル崩壊から始まった不況は、リー
マンショックによってさらに拡大し、大
企業と中小企業、中央と地方の格差を広

げ続けている。

平成は災害の時代でもあった。阪神大
震災、東日本大震災のあとも、各地で大
地震が続発しているし、南海トラフ大地
震の危険度は年々たかまわっている。台風
や豪雨災害も毎年のように起こっている。
政治面においても、大国のリーダーが
国際協調から自国主義に舵を切り、国家
間の対立を生み出している。日本におい
ても与党の専横による右傾化が目立つ。

このまま行けば、いずれ大規模な国際
紛争に行き着くし、日本もその片棒を担
ぎかねない。平成は、その前兆の時代と
なる可能性が高い。

子どもにとっても、決してより良い世
の中とは言えない。学校におけるいじめ
の件数は、過去最大を記録しているし、
児童虐待も増えている。貧困児童の問題
も未解決のままだ。そうした子ども環境
の悪化だけでなく、身近な子どもたちを
見ても、ずいぶん不自由な生活をしてい
るなど、感じることが多い。

放課後の遊び場も限定されていて、以
前のように小川や池に入って魚をすくつ
たり、公園で蟬とりをしている子どもを
見かけることもなくなった。あるいは隣
接する住宅地から、子どもの声がうるさ
いという理由で、公園や保育園新設が見

送られたという記事を目にする。

一体、いつからこんな論理がまかり通るようになったのだろうか。地域に住む人たちも、当然子ども時代があったはずなのだが、それはすっかり忘れ、己の生

活環境だけを重視する大人が増大してい

る。これは子どもだけでなく、老人に対しても同様で、社会的弱者に対するまなざしが年々冷たくなってきているのではないだろうか。

さて、平成時代も終わり、今年は新元号が制定されるだろう。

新しい時代が豊かで住みよい世の中になってほしい。子どもたちがのびのび暮らせる環境になってほしい。人権が尊重

され、少数意見も無視されないこと、戦争放棄、戦力不保持の憲法九条を堅持し、これを世界に発信する国になってほしい。

間違っても平成時代が「戦前」にならないことを切に願う。

失敗を受け止められて 優しく育つ

井桁容子(非常勤団体「ドモノミカタ代表理事」)

三歳まで、私の勤務していたナースリールーム(保育実践研究施設)で過ごしていたYちゃん。その後、小学校一年生になって経験したエピソードを、お母さんが教えてくれました。

その日は4Bの鉛筆を持ってくることになっていました。先生が「それでは4Bの鉛筆を出してください」と言つと、一人の女の子が「先生……、私、忘れました」と言いました。忘れた生徒は他にはいませんでした。すると先生は、ちょっと考えてからみんなに「それじゃあ、2Bの鉛筆はどつかな?」と尋ね、全員持っていると分かりました。

「そしたらね、先生は、じゃあ、今日は2Bでやりましょつ」って言ったんだよ「Yちゃんはお母さんに言いました。」

とき、あなたはと思ったの?」「泣き

そうになったの。だってね、私が幼稚園の時は、忘れ物すると先生は、じゃあできないうね」って言って仲間外れにしたんだよ。そうするとね、お友達が、ばーか。お前なんて帰れ」って言ったりして悲しかったの。でも先生は、たつたひとりのお友達の悲しい気持ちを分かってくれたの。だから涙がでそうになったの……」

さて、この先生はなぜ、2Bの鉛筆を使うことにしたのでしょうか。鉛筆を貸してやり、予定通りの授業をすすめることは簡単だったはず。しかし、あえて、そうしなかったのは、先生はこの経験を、子どもたちのこれからの人生に役立つこと、つまり「ひとりだけ悲しい思いをしている人がいるときに、みんながその人に合わせてあげる」ことがあっていいね」ということを、教えるチャンスにしたのではないかと思うのです。子どもたちの未来を見据えた経験を保障してあげたのです。きっと、「優しく意欲を持っ

た子を育てるには、罰を与えるよりも共感してあげることが重要だ」ということも「存じだつたのでしよう。素晴らしい先生ですね。」

今の大人たちは、「いい子に育て急がされた」世代です。失敗をしないように早く正解を教えられて、みんなと同じことを早くできるようにと頑張らされてきたはず。すると、大人になって親になった時に、我が子にも頑張らせて失敗をさせないようにと同じことをしてしまつと言われています。でも、本当の優しさや頑張る力、意欲というのは、ありのままの自分を理解されやさしく受け止められてしなやかに育っていくものなのです。頑張りすぎは、親の心も子の心もどんどん固く、壊れやすくなります。

さきほどのエピソードには、実は続きがあります。Yちゃんはそれ以来、先生が「新聞紙一枚」と言つたら三枚、「牛乳パック三個」と言つたら九個、つまり毎回三人分持つていくようになったそう

です。電車を乗り継いで登校なので、「荷物になって大変だからやめたら?」とお母さんが言っても、Yちゃんは持つていきました。友達が忘れた時に自分が多めに持つていれば役に立てると思ったからですね。

ところが、実際に忘れた友達がいて貸してあげようとする、数人の友達がYちゃんを囲んで「貸しちゃだめなんだからね!」と言ってきたというのです。Yちゃんに「どうして貸しちゃいけないの?」どうしてお友達に優しくしちゃいけないの?」どうしてそんなに優しいの?」と問われ、お母さんは答えることができなかったそうです。

しかし、この子たちを責めることはできません。きつとこの子たちは、忘れ物をしたたり失敗するたびに大人たちに「忘れたあなたが悪い」と厳しく叱咤されてきたのでしよう。厳しくされた人は優しさがなかなか学べないのです。Yちゃんのお母さんはこんなこともおっしゃって

いました。「三歳まで過ごしたナース
ルームで優しく受け止められた経験
があったから、困っている友達の役に立

子どもの権利は 平和で守られる

小森陽一(東京大学教授)

二〇一九年は、「子どもの権利条約」
〔児童の権利に関する条約〕が第四十
四回国連総会で、一九八九年十一月二十
日に満場一致で可決制定(発効は一九九
〇年九月二日)されてから三十年になり
ます。生まれたばかりの赤ん坊が、立派
な社会人に成長するにいたるだけの年月
が経ちました。

「子どもの権利条約」が国連総会で可決
される十一日前の一九八九年十一月九日、
ベルリンの壁が打ち壊され、「東西冷
戦」が終結したのです。世界が一つにな
ることが出来るという期待の中で、全世
界の国々が、一致して「子どもを救
え！」という方向に舵を切ることで合意
したのでした。

「子どもの権利条約」では、それまで保
護の対象でしかなかった子どもについて、
大人と同じように基本的人権を行使する
者へと認識を転換させました。選挙権以

ちたいと思えたのです。先生方に優しく
されたおかげなのです。それで、どうし
ても「報告とお礼が言いたくて……」

外の、思想・良心や集会・結社の自由、
意見表明権、教育や文化への権利、生
命・生存と発達の確保などの権利が認め
られたのです。日本が批准したのは一九
九四年五月二十二日、現在の署名国と地
域数は百四十、締結国・地域数は百九十
六です。

五千万人以上の犠牲者を出した第二次
世界大戦の反省をもとに、国際連合は一
九四八年に「世界人権宣言」で、戦争を
する意思決定に参加しないまま、最も犠
牲を強いられた女性と子どもの人権の保
障を表明しました。五九年には「子ども
の権利宣言」〔国連児童権利宣言〕を
出しました。さらに七九年に「女性差別
撤廃条約」を制定、国連加盟国が条約で
実現を相互に義務づけました。その後十
年間の議論を経て制定されたのが「子ど
もの権利条約」なのです。

二〇一九年を日本という国の中で「子
ども」として生きているみなさんには、
人間として自由に生きる権利が保障され
ていると実感出来ていでしょうか。一
人の人間として自立し、自分の生き方を

毎日頑張っているお父さん、お母
さん。肩の力を抜いて、子どもたちの失
敗も、「ご自分の失敗も、どうかおおら

自分で決められているのかどうか、自分
が生きていくために、必要な知識や技能
を身につけて成長していく環境が存在して
いるかどうか。そこが「子ども」である
みなさんすべてに問われているのです。

子どもの権利がおびやかされているか
もしれない大きな理由の一つは、みなさ
んが「子ども」として生きてきたすべて、
あるいは多くの時間にあたる、この六年
という期間、日本という国の政権が、日
本国憲法とリわけ九条を変えようといふこ
とを政治の中心にすえて来たことにあり
ます。

日本国憲法九条は第一項で「国権の発
動たる戦争と、武力による威嚇又は武力
の行使は、国際紛争を解決する手段とし
ては永久にこれを放棄する」と宣言して
います。これは国連憲章第二条の戦争の
禁止と同じ精神です。戦争こそが子ども
に大きな犠牲を強い続けて来た、それを
第二次世界大戦以後止めさせようとして
来たのです。

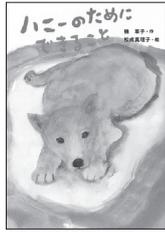
「東西冷戦」が終わった後、世界が一つ
になる期待が高まりましたが、地域の紛

に受け止めてください。新しい年が、た
くさんの親子にとって幸せな年になりま
すように。

争にアメリカが軍事的に介入しました。
湾岸戦争以後あなたも世界の憲兵のよう
にかるまい、「九・一一」以後アメリカ
が主張した「テロとの戦争」により、中
東地域での軍事紛争は激化しつつしまし
た。どれだけ多くの子どもたちが武力紛
争の中で犠牲となり、虐待と性的搾取の
対象になっているかは、日々の報道で明
らかにされているとおりです。

アメリカは、この「テロとの戦争」に
日本の自衛隊を参戦させるように強く要
求しつつつけています。一九九二年の「P
KO協力法」から自衛隊は海外に出まし
たが、憲法九条二項に「前項の目的を達
するため陸海空軍その他の戦力はこれを
保持しない」とあるので自衛隊は「非戦
闘地域」にしか派遣されないのです。自
衛隊が海外で「殺し、殺される」軍隊に
なっていないのは、日本憲法九条二項が
あるからなのです。これを変えて自衛隊
と戦場へ送ろうとする現政権のねらいを、
大人と一緒に阻んでいきましょう。

かなしみのむこうから、
ふくらんできたもの……



『ハニーのためにできること』

楠章子／作
松成真理子／絵
本体価格 1100円＋税

読み終えて表紙に戻ると、不安そうなハニーの目が、まっすぐこちらを見ていました。この目は、主人公のふたばを見つめた目ですが、読者の1人1人を見つめる目です。飼い主が死んで居場所がなくなった老犬を、どうするかから物語は動きます。おとなたちは誰もが手一杯で、「保健所」を考え始めた時、勇気をふりしぼってふたばがいます、「ハニーを、飼いたい!」。その時から、老犬の最晩年が描き出されていきます。

楠章子さんは、認知症が進行する「ばあば」の困惑とその家族の姿を、『ばあばは、だいじょうぶ』（童心社）で描いて、たくさんの読者の心を捉えました。『ハニーのためにできること』は、その先を描いた作品です。快復するあてのなくなった命のそばで、ふたばの家族は生きていくことになりました。読者が他人事ではなく、起こっている出来事ひとつひとつとていねいに向かいあえるのは、作者が紡ぎ出すしっとりした言葉の力です。

「ぬくもりがきえていくのを感じながら、こみあげてくるのは、かなしみ……だけではありませんでした。ハニーをいとおしいと思う気もちが、心のおくからふくらんできます。」

表紙の不安げなハニーに、「よかったね、ハニー」と、私は声をかけました。そして、命を大切にすることとは、こういうことなんだと、胸を熱くしながらうなずいています。

(いませき のぶこ／作家)

今関信子

これは、一度も「こわい」と思ったことがないごろべえの物語です。ごろべえは「こわい」ということを知りたくて、旅にでます。そして、もののけの国で大入道に出会いますが、ごろべえの方が強くて、こわい体験にはなりません。

グリム童話集には、「こわがることを習いにでかけた若者の話」という話があります。『ごろべえもののけのくにへいく』は、このグリム童話をもとにした創作民話です。考えてみれば、人は誰しも若い時にはこわがることを習いにでかけているではありませんか。学校に入学する時、嬉しい気持ちの半面に「ついていけるかな?」とかいう心配があるでしょう。入社試験に合格しても「仕事がうまくできるかな?」という心配があるでしょう。それでもやってみるのです。「こわがることを習いにでかける」ということは、若者たちがいろいろな場面でやっていることといえます。この絵本は人生のそんな機微を、愉快的な場面として見せてくれています。

ところで、ごろべえに「こわい」ということを教えてくれたのは、お寺の小坊主でした。大入道とまで会ったのに、小坊主が解決するという大転換がおもしろいですし、ごろべえが頭から冷や水をかぶったような気持ちにさせられたときの肩すかっぶりも、とんちがきいていて実に痛快です。

(おざわ としお／筑波大学名誉教授)



『ごろべえもののけのくにへいく』

おおともやすお／作・絵
本体価格 1300円＋税

こわがることを習いにでかける 小澤俊夫

1月の新刊図書!

読者の声

わらへうたでひろがるあかちゃん絵本
へっこ ぷっと たれた
おせんべ やけたかな
 こがようこ／構成・文 降矢なな／絵
 本体価格 950円＋税



『へっこ ぷっと たれた』と『おせんべ やけたかな』を購入しました。一歳半の息子が、毎日のように楽しんでます。降矢ななさんの絵が内容とすくくマッチしていて、とても気に入っています。素晴らしい絵本です。四歳の息子は、このキノコはおならをカマンしている顔だと言っています。おせん

ハートウッドホテル2

ねずみのモナと最高のおくりもの

ケイリー・ジョージ／作
 久保陽子／訳 高橋和枝／絵
 本体価格 1300円＋税



ホテルの仕事にもなれたモナは、おだやかな冬をすごすはずでしたが、外からなぞの侵入者がやってきて……!?

べいの方は、最近では、何度もページを前後にめくり直して楽しんでいます。この楽しみ方も想定していたのかなあ……と本当に奥深くしみこむ絵本だと思っています。さすが、童心社さんだなぁと感動しています。
 (北海道 M・K 四七歳)

14ひきのシリーズ
14ひきのあさごはん
 いわむらかずお／さく
 本体価格 1200円＋税



私が小さいころ、大好きだったシリーズの絵本でした。でも家にはなく、ずっとずっとほしかった絵本。娘が三歳になり、二歳の時から寝る前にある絵本時間にと買いました。シリーズぜんぶあつめる予定です。自然あふれる風景と、日々のくらしがとても心地よく娘にも何度もよんであげたいと思っています。(三重県 M・M 三三歳)

かわいいうしのえほん
かぶとむしのぶんちゃん
 高家博成・仲川道子／さく
 本体価格 850円＋税



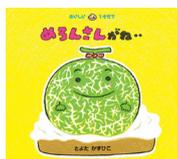
二歳の息子が自分で手に取り選びました。昆虫が大好きでクワガタやカブトムシに興味を持ち始めました。七回連続して「もう一回読んで」と頼まれました。思い出に残る一冊になりました。作者様、良い本をありがとうございます。
 (愛媛県 M・M 四〇歳)

松谷みよ子 あかちゃんの本
いないいないばあ
 松谷みよ子／ぶん 瀬川康男／え
 本体価格 700円＋税



どこにいても定番でおいてあるので、家で買っても……と第一子のときは買いませんでした。だけれど、よその家に貼ってあったポスターを見て「いないいないばあ」と叫ぶ姿を見て、「あ〜! こんなに好きなら買っとけばよかった」と思い、第二子には即購入しました。
 (広島県 Y・K 三七歳)

おいしいともたち
めろんさんがね
 とよたかずひこ／さく・え
 本体価格 850円＋税



食へ物シリーズ、バナナ、なつとう、いちごを持っていて、兄も妹もとても大好きな絵本です!!
 二人で「しんばい こもよう」ポーズを決め、最後はパクパク食べるマネをしてニコニコ楽しんでます。めろんさんではたらくさんの果物に喜んでり、ころんころんするところが大笑い。今回は手あそびの仕方もついていて、一緒にあそぶのも楽しみです。ありがとうございます。
 (愛知県 S・O 三〇歳)

あとがき

●今日よりよい明日が必ず来る——そう信じられた時代があったように思います。子どもたちには輝かしい未来が待っている筈と。今、とてもそうは信じられず、子どもに未来を語るのも難しく感じられてしまいます。未来に希望を持つためにはより強い意志が必要になっているのでしょう。子どもたちの未来のために、おとなは覚悟を持たねばなりません。◎

●平成を振り返る企画をよく目にします。元号への賛否は置いて、30年約一世代という長さや、バブル後とほぼ一致することもあり、それなりに意義をもつ区分になったのでしょうか。回顧は半面、新しい時代への期待や祈りでもあります。改元には古来、厄を払うような役割もありましたが、私たち自身の力で、希望ある時代を作っていかなければと思います。▲

2019年1月15日発行(毎月刊)
母のひろば 第656号
 定価50円(年600円/送料とも)

発行所: 童心の会
 〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
 株式会社童心社内
 電話: 03(5976)4187
 03(5976)4402(編集)
 編集発行人: 大熊悟
 童心社のホームページ:
<https://www.doshinsha.co.jp/>
 デザイン: 谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌(無料)と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円(送料とも)。

